



2020年度 出前講座報告書

NO. 9



日時：2021年1月25日 開催：相双保健福祉事務所（福島医大よりzoom配信）

🍀 テーマ「保健活動における面接・相談援助記録の書き方」

保健師をはじめ対人支援の専門職には、情報開示請求に堪える記録を書く、高い客観性と専門性が求められています。今回はSOAP記録を基本としたプロセス記録のポイントや、記録に必要なとされる要素、適した表現を学び、実際の記録の添削にもチャレンジしました。

また、今年度の出前講座においては2度目のzoom開催となりました。



🍀 講義の様子



講義では実際の開示請求事件の判例なども参考にしながら、記録する際のポイントを学びました。記録は個人のメモではなく、読まれることを前提とした業務記録であること、支援が必要であると判断した理由が分かるように書くことなど、標準化された書き方が出来るようになるためのノウハウがたくさん詰まった講義でした。

🍀 講師紹介



プリンシプル 職場の心理学研究所 所長
福島県立医科大学
放射線医学県民健康管理センター
特任准教授 八木 亜紀子

略歴

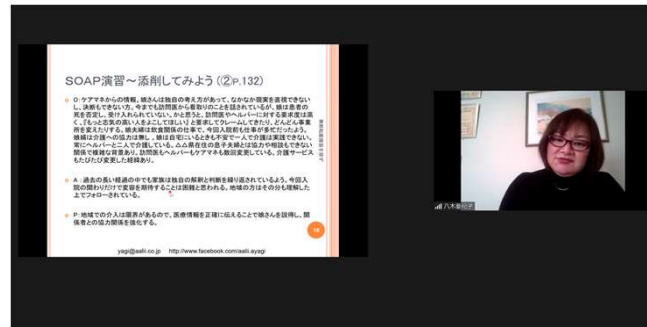
■ ウィスコンシン大学大学院マジソン校ソーシャルワーク修士課程修了。同志社大学大学院アメリカ研究科博士課程単位取得満期退学。アメリカで日英両語で個人、家族、グループ療法、リーダーシップ養成トレーニング、コーチングを提供。帰国後は、従業員支援、専門家養成、女性研究者支援、障害者の就労支援、東日本大震災による被災者支援に従事している。

資格

- 米国カリフォルニア州臨床ソーシャルワーカー
- 精神保健福祉士
- 公認心理師
- 国際EAP協会認定EAプロフェッショナル

📎 演習の様子

演習では、ケアマネジャーと退院支援看護師によって書かれた2つの記録の添削を行いました。初めに修正が必要と思われる部分に印をつけ、次に、どの部分がSOAPの各項目に該当するか、また、自分だったらどのように表現するかを考えました。その後、講師から添削対象の記録の悪い点と、添削例についての解説がありました。



📎 アンケート集計結果

参加者は23名、アンケート回収は22名でした。

評価項目	そう思う*
研修の資料や進行について <ul style="list-style-type: none"> ● 配布資料は適切だった ● 時間配分は適切だった ● 進行は適切だった 	95% 100% 100%
講義について <ul style="list-style-type: none"> ● 講義内容が理解できた ● 講義は今後の保健活動に役立つと思う ● 学んだことを同僚に伝えたいと思う 	100% 100% 95%
演習について <ul style="list-style-type: none"> ● 演習は今後の保健活動に役立つと思う 	100%
あなたご自身について <ul style="list-style-type: none"> ● 研修を受ける前よりも、保健活動に対する自信が増したと思う ● 研修を受ける前よりも、健康に関して住民と話し合う自信が増したと思う 	68% 55%

*5段階評価：「1.全くそう思わない」～「5.大いにそう思う」の4と5の合計

参加者の声（一部抜粋）

■ 今まで情報をもらすまいと、たくさん書いていたが、読み手に伝える記録をかくことが重要なのだと感じた。

■ 事例の紹介や演習をしていただいたため、大変分かりやすかったです。ありがとうございました。コロナが収束して、研修参加者の皆様と直接顔を合わせて交流できる日がくれば良いなと思いました。

復習ポイント

- ✓ 記録は誰のために作成するのか
- ✓ 危機介入について書き過ぎないようにするためには
- ✓ 修正・改ざんしていないと第三者が見てわかるようにするためのポイントは